

# 第27回特別展 太子塚古墳を考える



圧巻! 14体以上の盾持人埴輪がまもる帆立貝形古墳

## CONTENTS 目次

図録編	1 太子塚古墳の概要 (横山) .....	2
	2 太子塚古墳の埴輪たち (横山) .....	7
報告編	太子塚古墳の調査 .....	15
	1. 太子塚古墳の位置と調査の経過 (田口) .....	15
	(1) 和田山古墳群 .....	15
	(2) 発掘調査の経過 .....	15
	2. 太子塚古墳の遺構 (田口) .....	16
	(1) 上毛古墳総観 .....	16
	(2) 平面形・規模 .....	16
	(3) 周辺土層と遺物の層位 .....	18
	3. 墓輪出土状態の検討と埴輪配列の復元 (田口) .....	19
	(1) 出土状態 .....	19
	(2) 墓丘平面と埴輪配列の復元 .....	21
	4. 太子塚古墳の遺物 .....	27
	(1) 土器 (田口) .....	27
	(2) 盾持人埴輪 (田口) .....	27
	(3) 形象埴輪 (山本) .....	33
	(4) 円筒・朝顔形埴輪 (田口) .....	57
	5. 太子塚古墳が提起する問題 (田口) .....	55
写真図版	.....	60
論考編	「盾持ち」人物埴輪から前方後円墳を考える 塩谷修 (土浦市考古資料館) .....	73
	若宮八幡北古墳の墓造規格 田島桂男 (日本考古学协会会员) .....	81
	帆立貝形古墳と埴輪配列 日高慎 (東京学芸大学) .....	84

### 附言

- 本書は、かみつけの里博物館第27回特別展『太子塚古墳を考える』の展示解説書として編集した。
- 本特別展のテーマ設定は清水豊(本館次長)が行い、構成は横山千晶(本館学芸員)、山本ジェームズ(高崎市教育委員会文化財保護課)が行った。また、太子塚古墳の調査担当者である田口一郎氏(元高崎市文化財保護課)より指導を頂いた。諸作業にあたり、松田志保(本館学芸員)、山本ゆう子(本館臨時職員)の協力を得た。
- 本書作成の作業分担は以下のとおり。  
編集・原稿執筆: 横山・山本・田口(文責は目次に記す)  
遺物図: 旧箕郷町教育委員会で作成。遺物図のデジタルトレースは、(有)毛野考古学研究所に委託した。  
写真撮影: 形象埴輪は(有)毛野考古学研究所が行い、円筒埴輪は清水が担当した。
- 太子塚古墳の調査に関する記録類や出土遺物は、高崎市教育委員会で管理しがみつけの里博物館で保管している。
- 本特別展の付帯事業として実施する講座発表要旨を論考編に掲載した。
- 本特別展は、以下のとおり実施される。  
○会期 平成31年1月26日(土)～平成31年3月24日(日)  
○会場 高崎市立かみつけの里博物館  
○付帯事業(連続講座) ◇平成31年2月3日(日) 塩谷修(土浦市考古資料館)  
◇平成31年3月3日(日) 田島桂男(日本考古学协会会员)  
◇平成31年3月24日(日) 日高慎(東京学芸大学)
- 写真には提供者を明示した。提供者の記載のないものは、当館撮影または高崎市教育委員会の提供によるものである。
- 本文中、「帆立貝形」「帆立貝式」の用語が混在しているが、個々の執筆者の見解に基づいている。
- 本特別展開催にあたり、下記の機関より後援を頂いた。記して御礼申し上げます。(五十音順 alphabetical)  
後援 朝日新聞前橋総局・NHK前橋放送局・群馬エフエム群馬・群馬よみうり新聞社・群ラジオ高崎・共同通信社前橋支局・群馬テレビ・産経新聞前橋支局・上COM群馬・時事通信社前橋支局・上毛新聞社・東京新聞前橋支局・高崎観光協会・毎日新聞前橋支局・読売新聞社前橋支局

ごあいさつ

太子塚古墳は、箕郷町和田山に所在する古墳で、昭和10年調査の上毛古墳總観にもその名が記録されています。道路拡幅工事に伴い発掘調査が行われた際、質量ともに充実した埴輪が出土して注目を集めました。出土した埴輪の一部は、文化庁主催の最新出土品展「発掘された日本列島2008」に出品され、全国の皆様に見ていただきました。しかし、その他の埴輪と太子塚古墳の全容については、これまで紹介する機会がありませんでした。

この特別展では、太子塚古墳の形象埴輪のうち、全体像を復元できたものをはじめて全点展示します。また、檍名山麓の帆立貝形古墳から出土した埴輪もあわせて展示することで、保渡田古墳群を含むこの地域と太子塚古墳の関係について考えます。小さな古墳にぎっしりと並ぶ円筒埴輪、盾持人埴輪などのすぐたから、当時の人々の、古墳や、埴輪への想いを感じていただければ幸いです。

末筆ながら、この特別展にあたり、ご協力いただいた各位・諸機関に早くお礼申し上げます。

平成31年1月26日

かみつけの里博物館 編集 鈴木 潔



太子塚古墳出土盾持人埴輪

# 1 太子塚古墳の概要

平成4年(1992)、宜郷町和田山の町道に道路擴幅工事の計画が持ち上がった。そこは「和田山古墳群」と呼ばれ、昭和初期には74基の古墳があったことが知られている場所だった。宜郷町教育委員会が試掘調査を行うと、工事予定区域内に複数の古墳などの遺構が確認された。調査区域には上毛古墳總覽に記載されている「群馬郡中郷村第54号墳(太子塚古墳)」もふくまれていた。地番や地図で住民への聞き取りから、試掘調査によって見つかった古墳のうち、一つを太子塚古墳と認定した。工事によって破壊される遺跡の記録を残すため、平成5年(1993)1月から発掘調査が実施された。

上毛古墳總覽  
全長30尺=約9m、高さ7尺=約2.1m  
面積:10段=990m<sup>2</sup> 25歩=135m<sup>2</sup> 計1125m<sup>2</sup>  
大正時代の発掘調査については、詳細不明

## 「上毛古墳總覽」とは

昭和10年(1935)、群馬県内の古墳について一斉調査が行われた。その成果をまとめたものが「上毛古墳總覽」だ。調査は1500人以上の教職員や郷土史家が参加した大プロジェクトだった。このとき、県内には8423基の古墳があるとされた。その後、高度経済成長期を経て開発により姿を消した古墳も多いが、本書を見ると昭和10年当時の様子を知ることができる。古墳研究の上で重要な資料である。

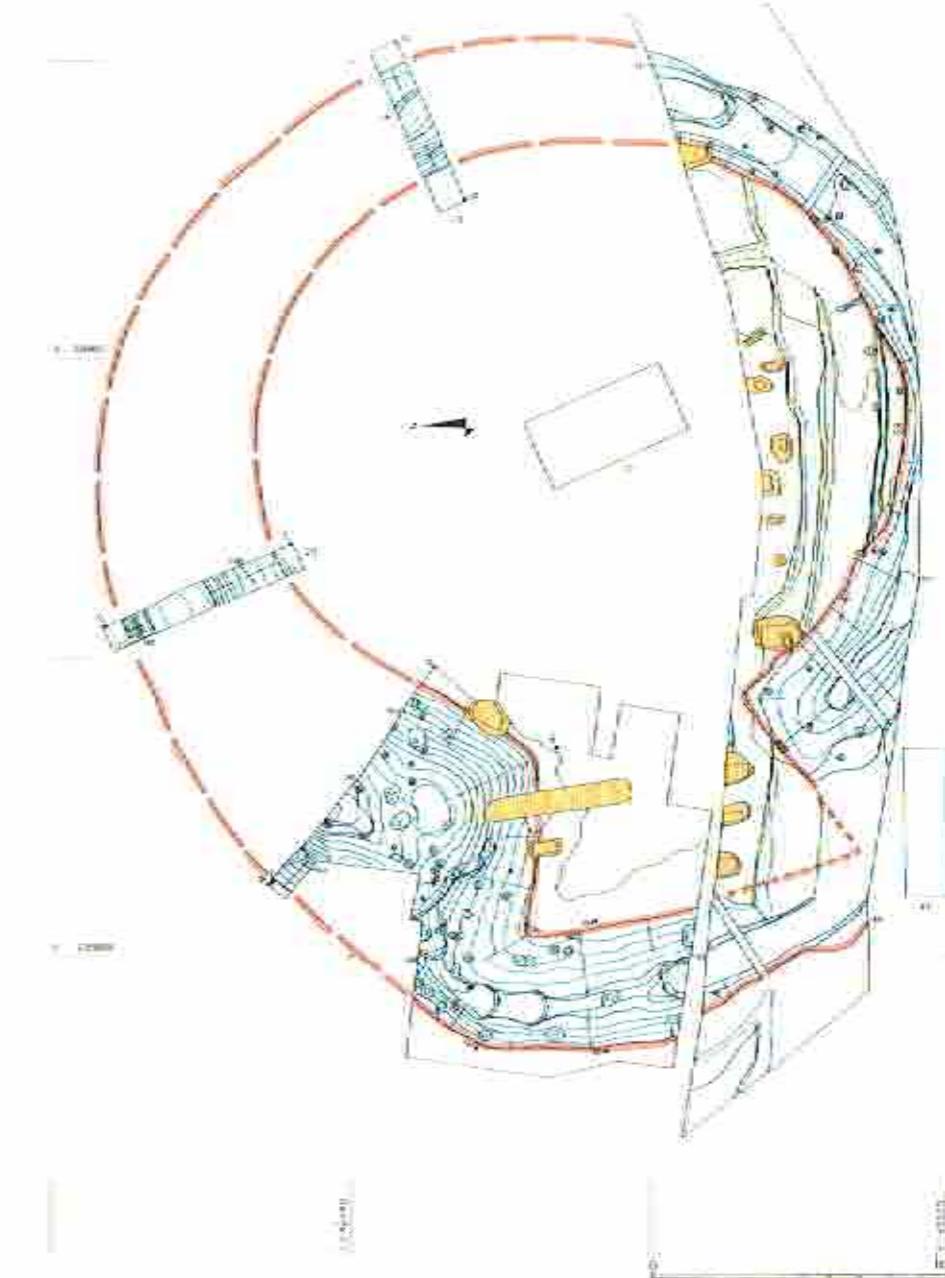
平成24～28年(2012～16)に群馬県教育委員会が行った「古墳総合調査」の報告書は「平成の上毛古墳總覽」とも呼ばれる。この調査時点で確認された古墳総数は13249基だった。

上毛古墳總覽  
群馬郡中郷村の古より



太子塚古墳 2次調査 空撮

## 太子塚古墳全体図



太子塚古墳全体図

「上毛古墳總覽」には古墳と記載されているが、調査の結果、太子塚古墳は直径18.4mの後円部と、長さ6m・幅8.1mの小さな前方部からなる帆立貝形式古墳だということがわかった。

墳丘の上面は削られているので、右図の赤線は残存する墳の最上部。未調査部分は破綻で推定ラインを入れた。

後円部の中心にも調査区を設定して遺構の有無を確認したが、埋葬施設は確認できなかった。